



さがら のぶひさ	
相良 宣尚	
区 分	旅客船事業者関係
居 住 地	東京都
所属・役職	小笠原海運株式会社 常務取締役

相談方法・連絡先

相談方法	メール及び電話
相談可能日時	随時(勤務時間9:00~17:00)・土休日を除く
電話番号	03-3451-5180
メールアドレス	sagara@ogasawarakaiun.co.jp

取組の概要

- ・ジェットフォイルの高速性・機動性を活かした新規航路開拓のため、東京～館山～下田を結ぶトライアングル航路のモニター運航を通じ、定期航路化を実現させた。
- ・新たな観光需要と地域活性化の推進を目指し、下田市が中心となって設立した「南伊豆地区・首都圏海上高速航路推進協議会」に参画。東京～下田、伊豆大島～下田をジェットフォイルで結ぶモニター運航を実施し、伊豆大島～下田の定期航路化を実現させた。

本人の言葉

・平成14年のジェットフォイル導入後、その機動性と快適性を活かした新規航路の開拓について各地の港湾の視察を重ねながら、こことあそこを結んだらお客さんは乗るだろうかなどと夢を膨らませながらチャレンジしてきました。何より新規航路の実現に向け大きく後押ししてくれたのは、地元自治体の熱意と関東運輸局をはじめとする関係官庁の強力なサポートでした。

略歴等

- 平成15年10月 東海汽船株式会社入社 営業企画部長
- 平成16年3月 東海汽船株式会社 旅客部長
- 平成23年6月 伊豆諸島開発株式会社 常務取締役

- 平成28年6月 小笠原海運株式会社 常務取締役

取組の内容、特徴

- ジェットフォイルの高速性・機動性を活かした新規航路開拓のため、東京～館山～下田を結ぶトライアングル航路のモニター運航を実施した。
- 新たな観光需要と地域活性化の推進を目指し、下田市が中心となって設立した「南伊豆地区・首都圏海上高速航路推進協議会」に参画。東京～下田、伊豆大島～下田をジェットフォイルで結ぶモニター運航を実施した。
- 「観光立市」を目指す藤沢市と協働し、江の島～伊豆大島をジェットフォイルで結ぶ航路を35年ぶりに復活させた。
- 公共交通活性化総合プログラムの「高速旅客船ジェットフォイル運航実験検討会」に委員として参画、東京～横浜～千葉、東京～三崎等の運航実験を実施した。

取組への意欲、取組における役割

- 平成15年、銀行マンという異業種から海上運送事業に飛び込み、「海が好き、旅が好き」の視点で自ら行動、新規航路の開拓、旅客の誘致を精力的に実践し、その先進性、独創性及び実行力は卓越している。
- 自治体等からの新規航路開拓等の要望・相談に対し、真摯に取り組み、協議会、検討会、策定会議へ参画、自治体関係者・旅行会社等との深い信頼関係を築くとともにネットワークを構築した。
- 海上公共交通に関する知識、熱意を有しており、島民の生活維持に不可欠な離島航路の拡大、維持、確保を図るため、中心的役割を果たした。

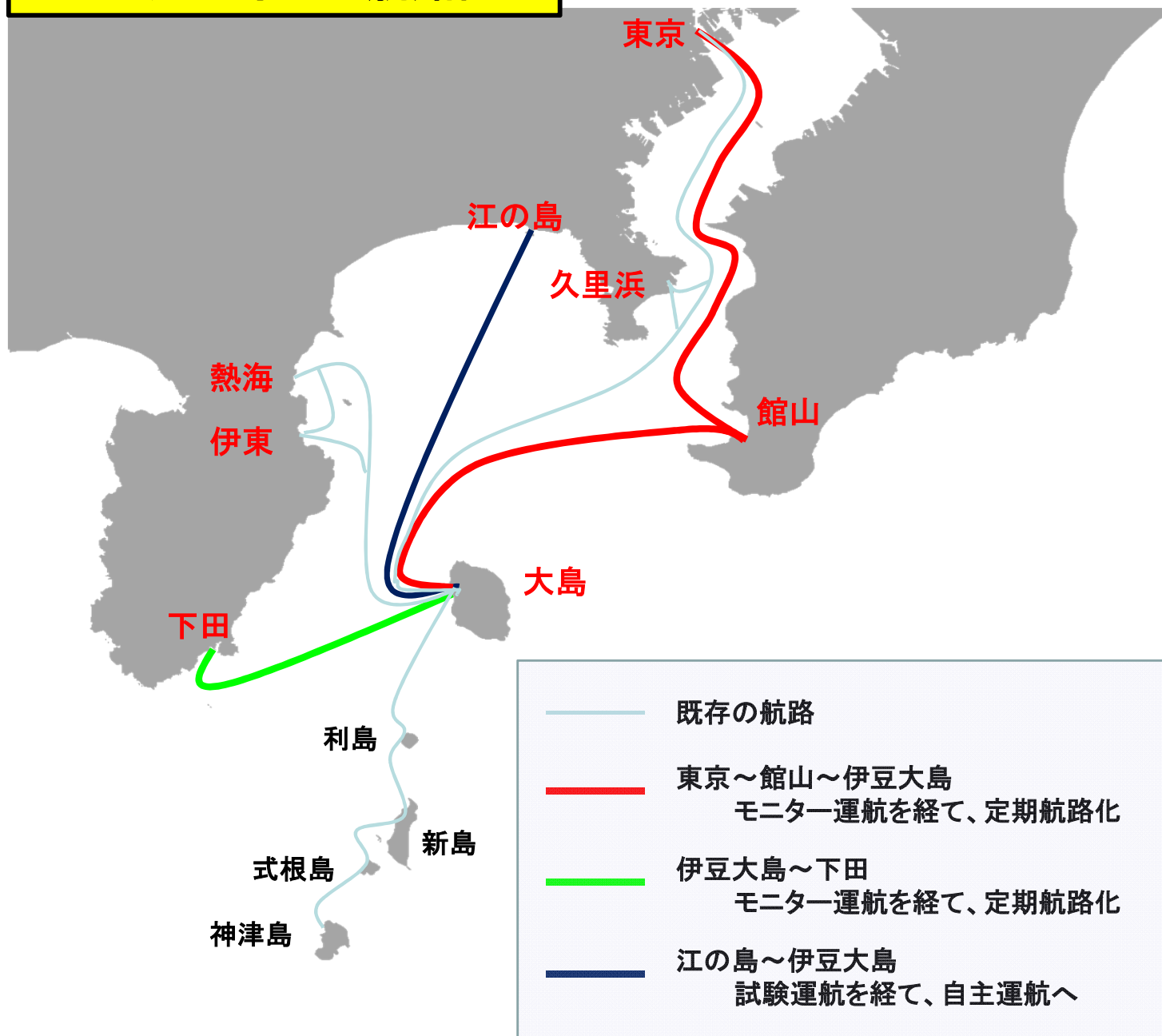
取組の成果、地域への貢献度

- モニター運航を通じ、「移動時間が短縮した」「ツアー企画が組みやすい」等、多くの利用者から支持を得、東京～館山～伊豆大島、伊豆大島～下田の定期航路化を実現。特に、館山と伊豆大島間は、毎年利用者が増え、地域への貢献度は大きい。(館山と伊豆大島の相互交流年間約1万人)
- 伊豆大島での日帰り観光プランをセットした江の島～伊豆大島の運航が大反響を生み、相互の地域観光振興に大いに貢献した。

先達としての実績

- 「館山湾振興ビジョン策定会議」、「南伊豆地区・首都圏海上高速航路推進協議会」、「高速旅客船ジェットフォイル運航実験検討会」に参画し、海上公共交通を担う立場から、メンバーや地元関係者に対し講演や様々な提言を行った。
- 新たに航路開設するには、地元自治体、港湾管理者、海上保安部等との調整、場合によっては漁業協同組合等との話し合いも必要であり、そのノウハウを十分に熟知している。また、数多くの案件を精力的に処理しており、これから地域公共交通に取り組もうとしている人たちの先達となりうる。

ジェットfoil航路図



セブンアイランド 夢



セブンアイランド 愛



セブンアイランド 虹

マイスターの主な取組みと成果①

東京～館山～伊豆大島航路開設

南房総と伊豆半島をジェットfoilで結び、異なる観光の魅力を持つ両地域を一度に体験でき、快適な船旅を楽しめる新しい旅行を提案することで、地域の活性化につなげ、新規航路の開拓に向け尽力した。

【モニター運航実施】

・平成16年7月 東京～館山～下田 トライアングル航路



平成17年3月東京～館山～伊豆大島定期航路化。館山、伊豆大島の交流人口増大

【定期航路化後の館山～伊豆大島旅客輸送実績】

平成17年	6,000人	平成21年	9,156人
平成18年	6,130人	平成22年	11,282人
平成19年	6,935人	平成23年	9,601人
平成20年	8,316人		(大震災の影響)

伊豆大島～下田航路開設

新たな観光需要と地域活性化の推進を図ることを目的に平成16年11月に設立した「南伊豆地区・首都圏海上高速航路推進協議会」に参画し、「航路開設の取り組み課題の解消」等について講演、観光ツアーを組み込んだ企画を提案するとともに、関係者との協力体制を構築し、繋ぎ役、まとめ役として尽力した。

【モニター運航実施】

・平成17年2月、東京～下田、伊豆大島～下田



平成17年4月定期航路化
地域相互の観光振興に貢献

【定期航路化後の伊豆大島～下田旅客輸送実績】

毎年、2千人～3千人で推移している。



ジェットfoil

総トン数：約280トン
旅客定員：255名
航海速力：43ノット(約80Km)

【ジェットfoilと鉄道(特急)との移動時間比較】

竹芝～館山	約75分	JR東京～JR館山	約120分
館山～下田	約90分	JR館山～伊豆急下田	約280分
竹芝～下田	約135分	JR東京～伊豆急下田	約150分

マイスターの主な取組みと成果②

江の島～伊豆大島航路の復活

新たな観光資源開拓を目指す藤沢市と協働し、「江の島から伊豆大島へ」と題して、伊豆大島での観光・ハイキング・温泉・昼食等を組み込んだ日帰りパッケージツアーを企画、旅客需要の検証を行い、航路復活に向けた取組みに尽力した。

【モニター運航実施】

・平成21年6月 江の島(湘南港)～伊豆大島をジェットフォイルで結び(約60分)、35年ぶりに航路を復活させた。「応募受付当日に即日完売」という大反響を生み、3日間で1,451名が乗船した。

三原山の大自然を満喫するハイキングコースや大島周遊の日帰りパックツアーを提案し、多くの支持を得た。

翌年から、自主運航を実現
地域の相互の観光振興に貢献

昭和40年～昭和49年の間、同航路が存在しており、当時の所要時間は約170分。

その他の取組み

○平成19年度～平成21年度 公共交通活性化総合プログラム「高速旅客船ジェットフォイル運航実験検討会」の委員として参画、その中心的な役割を担い、新たな海上ルートの開設のため、航路の提案、寄港地の調整、ツアー企画、各自治体とのコミュニケーションの確立に尽力した。

－運航実験－

平成19年度

・東京港～横浜港～千葉港 2日間で353名乗船

平成20年度

・千葉港～横浜港～東京港 2日間で736名乗船

・東京港～三崎漁港 2日間で995名乗船

平成21年度

・千葉港～横浜港～伊豆大島 2日間で720名乗船

・千葉港～三崎漁港 1日で 459名乗船

○平成22年年末、千葉市、三浦市、熱海市と協働して、「三崎まぐろ祭り」「熱海での温泉入浴」等を盛り込んだ千葉港～三崎漁港～熱海港間の特別クルーズを実現した。

